特　集

大阪湾の生き物をみんなで調べよう

―大阪湾生き物一斉調査―

文　田中 広樹（理事・海の観察会）

2008年から始まった「大阪湾生き物一斉調査」は、大阪湾環境再生連絡会の主催で、各地域で活動している団体が調査を分担するというものです。毎年同じ時期に、大阪湾岸の各地で一斉に調査がおこなわれています。第5回目となる今回は、全22地域のうち4地域を当協会で担当しました。各調査地からのレポートも集まりました。来年も同じように実施していく予定ですので、皆さんもぜひご協力ください。

保全協会担当調査（2012年）

調査日	調査地	担当グループ
6月3日	淀川十三干潟	淀川自然観察会
6月3日	堺2区友海ビーチ	堺2区友海ビーチ自然観察会
6月7日	東川（落合川）河口	海の観察会
6月7日	豊国崎	海の観察会

たくさんの生き物たちとふれあえる かけがえのない磯～豊国崎

文・写真　棚田 麻美・石川 恵（海の観察会）

6月7日、大阪湾いきもの一斉調査の一環として、豊国崎の生き物調査を総勢16名で行いました。東川河口での調査を終え、向かったのは豊国崎の岩礁海岸です。ごろごろ大きな石の間にはヒトデやナマコ、イソギンチャクなどたくさんの海の動物たちを見つけることができました。また，たくさんの種類の海藻を発見し，講師の鍋島先生と大谷先生に同定していただきました。

大阪湾ってとても汚くて臭くて生き物なんか棲めない海だと思い込んでいましたが、その思い込みは払拭され，大阪湾にはこんなにたくさん生き物がいて，水が澄んでいて，潮の香りを楽しめる場所もあることを知りました。また，数種のカニ達が海辺や川、干潟で棲み分けをしているところなどを観察でき、海や川の違いというものを強く意識できたように思います。

そして、調査の後に水産技術センターの見学させていただき，観察会では見つけられなかった魚なども見ることができて、大阪湾について本当にたくさんのことを知る一日となりました。

ごろごろした石を裏返すと、生き物たちがいっぱい

大のおとなが夢中になっています

最後に水産技術センターでも楽しめました。

干潟の生き物ウォッチングin十三干潟

文・写真　和田 太一（淀川自然観察会）

淀川自然観察会では淀川汽水域の干潟の生き物観察会を毎年行っています。今年は6月3日に淀川区の十三干潟で大阪湾生き物一斉調査の参加行事として行われました。観察会で見つかった生き物をデータとして連絡会へ報告しています。当日は朝から小雨が降る天気でのスタートでしたが、大人19名、子供15名の合計34名の参加者があり、やはり干潟の生き物観察会は人気でした。

十三干潟は大都市大阪のど真ん中にありながら、自然の干潟とヨシ原が残り、多くの生き物たちが棲んでいます。ヨシ原にベンケイガニの仲間がたくさん隠れていたり、干潟に転がっている石にはたくさんの巻貝や二枚貝が付着しています。干潟を掘るとヤマトシジミやゴカイの仲間も出てきます。ヨシ原の間を流れる澪筋（みおすじ）には、テナガエビやハゼの子供がたくさんいて、潮が引いて浅くなると子供たちでもタモ網を使って簡単に捕まえ触ることが出来ました。大小のウナギも数匹採れていました。

観察を終えたあとの生き物あわせでは、水槽の中に子供たちが捕まえたカニやエビや魚が溢れんばかりに入っていました。今年の生き物一斉調査のテーマである「外来種」の貝やカニも見つかりましたが、汽水域特有の生物が多く見つかっていました。

最後に紙芝居で干潟の水質浄化の役割や渡り鳥の中継地としての重要性を紹介し、シジミの水質浄化実験も行って、参加者の皆さんにこの貴重な干潟をこれからも見守り続けていくことの大切さを考えてもらいました。

石の下にはどんな生き物が？

紙芝居で干潟の大切さを！

ウナギ

潮の引いた十三干潟

モズクガニ